

令和7年度琉球大学法科大学院
B日程 法学未修者コース 入試問題

記述式試験

令和6年11月10日（日曜日）
9時30分～10時15分（45分）

注意事項

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

- 1 この試験では、**解答用紙2枚**、**下書用紙1枚**を配布しています。
試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験開始後、問題の部分に印刷不鮮明、汚損等があれば直ちに申し出てください。
- 3 解答は、必ず解答用紙に記入し、答案の何枚目であることを示してください。
また、答案に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号を記入してください。
- 4 解答用紙が足りない場合は、解答用紙2枚目の裏面に記入下さい。
- 5 黒色または青色であれば、筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
- 6 試験開始後は、途中退席できません。必要があるときは、監督者に申し出てください。
- 7 試験終了後、解答用紙を送信してもらいますので、指示があるまで席を立たないでください。
- 8 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

令和7年度B日程入試・記述式問題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

(文章については、著作権の関係で当 Web ページには掲載していません。)

出典：小坂井敏晶『格差という虚構』による。ただし、出題に際して原文の一部を抜粋した。

(問1) 筆者が下線部①で指摘する「学校の本当の目的」は何かについて、文章中の言葉を用いながら説明しなさい。

(問2) 下線部②で述べられている見解に対するあなたの賛否を明らかにし、その理由を挙げて、説明しなさい。

令和7年度B日程入試・記述式問題

【出題趣旨】

本書は、フランスで大学教員をしている筆者が、近時、格差を告発する書が多く出されていることに留意して、我々は何を求めているのか、格差のない理想社会とは何を意味するのかといった点について、「格差は絶対になくならないだけでなく、減れば減るほど人間を苦しめる」という観点から、格差問題について論じた書である。

本問の文章中で筆者は、学校の目的は何かという問いかけを発端に、先進諸国の例を挙げながら議論を展開する。学校については、仮にその目的についてこれまで考えたことがなかったとしても、その目的を階層再生産という観点から考えてもらうことが、出題の狙いである。

【採点基準】（45点満点）

問1（20点）

1. 下記のポイントを押さえているか 15点
2. まとめ方（論理性・表現方法） 5点

（ポイント）

・階層再生産のメカニズムを隠すことが学校の目的（であり、平等な社会を実現するための方策がかえって既存の階層構造を正当化し、永続させるのである）。

➤階層再生産とは何かについて

勉学の機会を均等にしても家庭環境の違いにより学力の差が現れる。進学資金だけが問題なのではなく、家庭事情により言語や教養の習得に差が出て、富裕層の子は親を手本に社会評価の高い職業に就くべく努力するのに対し、そうでない親の子は、親と同じ低賃金で社会評価の低い職業に甘んじるのであり、これが学歴の階層再生産である。

➤日本では気づきづらいことについて

明確な階級区分のない日本では、この階層再生産に気づかない。誰もが学校に行く環境を整え、形式的な客観性や平等に注意を払えば、あとは各自の才能や努力が結果を決め、それなら公平だという考えが定着する。

問2（25点）

学校制度とメリトクラシーの関係について、自分の立場を明らかにしたうえで、論理的・説得的に自分の言葉で表現することが求められる（自説展開力）。

1. 立場を明確に示していること（5点）
2. 理由を挙げられていること（5点）
3. 論理的・説得的に自説を展開できていること（15点）

【賛成の立場の一例】

共通の基準や何らかの評価制度を通じて証明された「達成」は、公正で客観的な価値の

令和7年度B日程入試・記述式問題

印として受け入れられている。基準として分かりやすい。

【反対の立場の一例】

能力の個人差を認める立場からは、それが社会の階層化メカニズムを国家的制度として一元的に整備することで個人の能力を把握・管理することは問題ではないか。形式的な機会の平等がむしろ不平等を拡大させている。